

# SUFD Report 2018

平成30(2018)年度 仙台大学FD年次活動報告



## 報 告 REPORT

本学では、教員を中心にFD活動を実施している。主な事業内容は、(1) 学内FD研修会の企画運営実施、(2) 授業改善アンケートの実施、(3) シラバス作成の支援、(4) FD活動の広報・周知である。

### (1) 学内FD研修会の企画運営実施

平成30年度は、次の5つのFD研修会を実施した。

#### ① 新任教員FDセミナー

平成30年度の新着任教員を対象に、カリキュラムをはじめとする教務に関する事項とFD活動等についてのスタートアップ支援FDセミナーを4月3日に実施した。

#### ② 外国語に関するFD研修会

外国語教育について実践例を踏まえた検討を行うFD研修会を9月18日に実施した。本学で外国語(スペイン語、韓国語、英語)の授業を担当されている4名の先生方から、学生の主体

性を引き出すために授業内でどのような工夫をされているかについて実践報告がされ、参加者との質疑応答がなされた。

#### ③ 学習状況の概要報告およびアセスメントポリシーを踏まえた成績評価についての研修会

7月18日～7月28日にかけて、学生に対する支援と指導のために日常の学生の学習状況についての基礎的な資料を得ることを目的とした学習状況調査を全学生に実施し、この調査結果について9月18日に報告した。この調査結果を通して、学年、学科、希望する進路、スポーツ活動の有無等と学習状況との関係が示された。

併せて、アセスメントポリシー(学修成果の

評価の方針)を踏まえた成績評価についても説明をした。機関(大学)、教育課程(学部・学科)および科目(授業・科目)レベルでの本学のアセスメントポリシーを示し、それを踏まえて成績評価をするように説明をした。

#### ④ 授業づくりのためのFD研修会

本学では学生と教員が参加する研修会を毎年開催している。今年度は「大学における理想の講義とは」をテーマに掲げ、12月11日に研修会を開催した。

教員と学生ごとにグループに分かれ、授業や評価の方法や要望、授業に関する悩み、面白い授業について意見を出し合った。その後、教員と学生が入り混じったグループを再構成し、教員と学生のそれぞれの立場から、「大学における理想の講義」とはどのようなものなのかについて、討論を実施した。

#### ⑤ シラバス・ルーブリック作成研修会

本学では学生にとってよりわかりやすいシラバスとするために、教員に配布している作成要領を加筆修正している。本年度はそれに加え、シラバス書式の変更点や作成時の留意点、および来年度から実施するルーブリック作成の要領についての研修会を1月8日に実施した。

## (2) 授業改善アンケートの実施とベスト授業賞の表彰

原則としてすべての科目を対象に「FDネットワーク“つばさ”」のフォーマットで「授業改善アンケート」を受講学生全員に実施している。個々の授業の改善を目指し、授業内容・教授方法に対する学生の反応を探ることが、本アンケートの大きな狙いの一つである。また、本学独自の「授業改善アンケート活用フォーム」を用いて、集計結果を基に各教員が担当科目と全体平均などとの比較が出来るようになっている。

## (3) シラバス作成の支援

シラバスは学生に対して授業内容を示すだけでなく、大学設置基準や認証評価等への対応も兼ねており、教学経営において重要なものであると考える。シラバスを作成すること自体がFD活動の一環であり、教育改善企画運営委員会では毎年次年度の様式や記載内容の項目について検討し、統一様式により原則すべての開講科目について作成を依頼している。学生にとってよりわかりやすいシラバスとするために、本年度も教員に配布しているシラバス作成要領を加筆修正した。なお、シラバスは本学ホームページにも掲載し、保護者等も閲覧できるようにしている。

## (4) FD活動の広報・周知

### ① FD広報冊子の作成

本学ではFD広報冊子(SUFU Report)を年に1度発行している。本年度発行するもので第7号となる。この冊子の発行の目的は、本学の教育改善企画運営委員会が実施しているFD活動の内容を、学内外に周知することである。

### ② 学外のFD研修会情報の提供

学外において開催されているFD研修会についての情報提供を行っている。メールやポスター等で届いた開催案内を教員向けに整理し、全教員を対象にメールで周知をしている。



# 報告 REPORT

## 平成 30 年度 新任教員のための FD セミナー



### 開催プログラム

日 時：平成 30 年 4 月 3 日（火）11 時 00 分 ～ 12 時 30 分

会 場：A 棟 2 階 大会議室

対 象：平成 30 年度 着任教員

持ち物：学生便覧、授業概要、オリエンテーション資料、TIMETABLE（時間割）

時刻	内容												
11:00	開会挨拶												
11:05	教務について ① 履修登録と成績評価 ② 教室での機材の利用 ③ 学生の出欠管理 ④ 学生への連絡・告知 ⑤ 休講 ⑥ オフィスアワー ⑦ その他												
11:25	カリキュラムについて ① カリキュラムポリシー ② カリキュラム全体の編成 ③ 担任制 ④ 体育系大学の基礎教養												
11:40	FD 活動について ① FD 活動とは ② シラバス（授業概要） ③ 授業改善アンケート ④ FD 研修会												
11:55	フリートーク <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>グループ</th> <th>新任教員</th> <th>FD 委員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>大宮、江尻、小野寺</td> <td>平田*、平良、長橋</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>佐々木、日下、林、溝上</td> <td>針生*、鈴木</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>原田、久保、川戸</td> <td>高橋*、金井</td> </tr> </tbody> </table> <p>*コーディネーター役、<u>下線</u> = 記録係</p>	グループ	新任教員	FD 委員	①	大宮、江尻、小野寺	平田*、平良、長橋	②	佐々木、日下、林、溝上	針生*、鈴木	③	原田、久保、川戸	高橋*、金井
グループ	新任教員	FD 委員											
①	大宮、江尻、小野寺	平田*、平良、長橋											
②	佐々木、日下、林、溝上	針生*、鈴木											
③	原田、久保、川戸	高橋*、金井											
12:25	閉会挨拶												

# 報告 REPORT

## 平成 30 年度 外国語に関する FD 研修会

### 「仙台大学における外国語の授業の実践報告—学生の主体性を引き出すための工夫—」

日 時：平成 30 年 9 月 18 日（火） 11 時～ 12 時

会 場：A 棟 2 階 大会議室

講 師：平田忠教授（スペイン語）、  
金賢植講師（韓国語）、  
菊地博教授（英語）  
ジェリー・パラング講師（英語） 4 名

外国語教育について実践例を踏まえた検討を行う FD 研修会を実施した。

本学で外国語（スペイン語、韓国語、英語）の授業を担当されている 4 名の先生方から、学生の主体性を引き出すために授業内でどのような工夫をされているかについて実践報告がされ、参加者との質疑応答がなされた。



# 報告 REPORT

## FD 研修会

### I. 平成 30 年度学習状況調査の概要報告 II. アセスメント・ポリシー（学修成果の評価の方針）を踏まえた成績評価について

日 時：平成 30 年 9 月 18 日（火）17 時 30 分～18 時 00 分

会 場：第 5 体育館 2 階 大教室

講 師：教育改善企画運営委員会 高橋委員長

参加者：全教員

本研修会は①前期中に実施した学習状況調査の結果を通し、本学学生への理解を深めること、②アセスメントポリシーに基づく学修成果の評価・検証の仕組み等の理解を深め、適切な成績評価の実施へとつなげることの 2 点を目的として実施した。

今年度、全学生を対象として実施した「学習状況調査」の結果を集計した資料を基に、教育改善企画運営委員会の高橋委員長から、学年、学科、希望する進路、スポーツ活動の有無等と学習状況との関係が示された集計結果の報告と共に、今後の学生への対応について問題提起がなされた。また、アセスメント・ポリシー（学修成果の評価の方針）を踏まえた成績評価についての説明があった。



2018.9.18 FD 研修会資料

<p>平成30年度 仙台大学FD研修会</p> <p><b>I. 平成 30 年度学習状況調査の概要報告</b> <b>II. アセスメント・ポリシーを踏まえた成績評価について</b> 〔学修成果の評価方針〕</p> <p>①開会・研修会の趣旨説明 ②テーマ I についての報告 ③テーマ II についての報告 ④質疑 ⑤閉会</p> <p>平成30年9月18日(火)17時30分～18時00分 教育改善企画運営委員会</p>	<p><b>研修会の目的</b></p> <p>【テーマ I に関して】 前期中に実施した学習状況調査の結果を通し本学学生への理解を深める</p> <p>【テーマ II に関して】 アセスメント・ポリシーに基づく学修成果の評価・検証の仕組み等の理解を深め、適切な成績評価の実施へとつなげる</p>	<p><b>平成30年度学習状況調査の概要報告</b></p> <p>【目的】 学生に対する支援と指導のため、日常の学修状況についての基礎的な資料を得ること。</p> <p>【調査内容】 ①基礎的機能・性別・学年・学科 ②授業時間以外での自主的な学習時間 ③授業時間以外での運動やスポーツ活動の時間 ④大学での学習で最も力を入れていること ⑤高校2年時での授業時間以外での自主的な学習時間 ⑥高校3年時での授業時間以外での運動やスポーツ活動の時間 ⑦卒業後の進路として最も希望していること</p> <p>【調査対象 / 方法 / 期間】 全学生 / 質問紙(マークシート)調査 / 平成30年7月18日～7月28日</p>
<p>まとめ</p> <p>1. 四年生を除いて、自主的な学習を十分にしている学生が少ない。 四年生で学習時間が相対的に長くなっているのは、教員採用試験など就職対策のための学習の必要性と関連があると考えられる。</p> <p>2. 1年次には資格や免許の取得を目標とする学生が60%弱と最も多いが、この割合は学年の進行とともに低くなる。 それに対して「職業を身につける」ことを重視する学生が増加している。</p> <p>3. 進路の希望として1年次では教員希望が最も多いが、学年が進むにつれてその割合は減少する。 それに対して一般企業を目指す学生が増加している。 「公務員」「スポーツ関連の職業」を目指す学生はいずれの学年においてもある程度の割合見られる。</p> <p>4. 高校三年生の時に学習時間と大学での学習時間との間に正の関連が見られる。</p>	<p><b>アセスメント・ポリシーを踏まえた成績評価について</b></p> <p>ディプロマ・ポリシー = 学位授与の方針 カリキュラム・ポリシー = 教育課程編成・実施の方針 アドミッション・ポリシー = 入学者受入れの方針 アセスメント・ポリシー = 学修成果の評価の方針</p>	<p>【仙台大学のアセスメント・ポリシー(案)】</p> <p>1. 機関レベル(大学) 学生の志望進路(就職率、資格・免許を活かした専門領域への就業率及び進学率)や各種アンケート調査(卒業生、就職先へのアンケート調査)等から学修成果の達成状況を検証します。</p> <p>2. 教育課程レベル(学部・学科) 学部・学科設定の卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、資格・免許取得状況等から教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を検証します。</p> <p>3. 科目レベル(授業・科目) シラバスで提示された授業科目の到達目標及び成績評価方法に対する適切な評価、授業アンケート等の結果から、科目ごとの学修成果の達成状況を検証します。</p>

# 報 告 REPORT

## 平成 30 年度 学生主体の授業づくりのための FD 研修会 「大学における理想の講義とは」

日 時：平成 30 年 12 月 11 日（火）14 時 20 分～16 時 20 分  
 会 場：LC 棟 2 階 会議室  
 参加者：教員 13 名、学生 12 名



### プログラム

- 14：20      1  開会（司会：福田委員）
- 2  話題提供（高橋委員長）
- 14：30      3  ディスカッションⅠ（教員と学生に別れて話し合い）
- <議論の内容>
- 教員グループ：①授業方法の工夫、②評価方法の工夫、③授業に関する悩み
- 学生グループ：①授業方法への要望、②評価方法への要望、③こんな授業が面白い
- 15：00      4  ディスカッションⅠ発表
- 15：10      5  ディスカッションⅡ（教員、学生が混合での話し合い）
- <議論の内容>
- 大学における理想の講義とは
- 15：50      6  ディスカッションⅡ発表、質疑応答
- 16：10      7  閉会の挨拶（高橋委員長）



### ディスカッションⅠ

		1 班	2 班			3 班	4 班	5 班
教員		* 日下三男 大宮勇雄 原田健次 佐々木和	* 林直樹 小野寺和也 久保佳子 溝上拓志 川戸湧也	学 生		鹿折真也(栄4) 成田百合香(健4) 中嶋駆流(体2) 飯澤詢(情2) * 針生委員	細川亜佳音(健4) 安藤沙紀(武2) 大湊晃介(子2) 二階堂弘貴(体2) * 平良委員	本間桃香(栄4) 高橋良輔(情2) 熊谷知哉(武2) 矢田部彩(子2) * 福田委員

\*ファシリテーター

### ディスカッションⅡ

		1 班	2 班	3 班	4 班
教員		* 林直樹 原田健次 小野寺和也	* 日下三男 大宮勇雄 久保佳子	佐々木和 溝上拓志 * 福田委員	川戸湧也 * 針生委員 平良委員
	学 生	成田百合香(健4) 熊谷知哉(武2) 矢田部彩(子2)	鹿折真也(栄4) 中嶋駆流(体2) 飯澤詢(情2)	本間桃香(栄4) 二階堂弘貴(体2) 高橋良輔(情2)	細川亜佳音(健4) 安藤沙紀(武2) 大湊晃介(子2)

\*ファシリテーター

2018.12.11 FD 研修会資料

<p style="text-align: center;"><b>平成30年度 FD研修会</b> <b>「大学における理想の講義とは」</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会(司会:福田委員)</li> <li>2. 話題提供(高橋委員)</li> <li>3. グループディスカッション</li> <li>4. 発表・質疑応答</li> <li>5. 閉会の挨拶</li> </ol> <p style="text-align: right; font-size: small;">平成30年12月11日(水) 教育改善企画運営委員会</p>	<p><b>ディスカッション I</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> <p><b>教員グループ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業方法の工夫</li> <li>②評価方法の工夫</li> <li>③授業に関する悩み</li> </ol> </td> <td style="width: 50%; border: none;"> <p><b>学生グループ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業方法への要望</li> <li>②評価方法への要望</li> <li>③こんな授業が面白い</li> </ol> </td> </tr> </table> <p style="font-size: 2em; color: blue;">↓</p> <p><b>ディスカッション II</b></p> <p style="color: red;">大学における理想の講義とは？</p>	<p><b>教員グループ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業方法の工夫</li> <li>②評価方法の工夫</li> <li>③授業に関する悩み</li> </ol>	<p><b>学生グループ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業方法への要望</li> <li>②評価方法への要望</li> <li>③こんな授業が面白い</li> </ol>	<p style="text-align: center;"><b>ディスカッションの進め方(一例)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ポストイットに自分の意見やアイデアを書く</li> <li>②意見を書いたポストイットを模造紙に張り出す</li> <li>③似たような意見同士で分類する</li> <li>④意見やアイデアを発展させる</li> <li>⑤班の意見をA3用紙にまとめる</li> <li>⑥代表者が発表</li> </ol>
<p><b>教員グループ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業方法の工夫</li> <li>②評価方法の工夫</li> <li>③授業に関する悩み</li> </ol>	<p><b>学生グループ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業方法への要望</li> <li>②評価方法への要望</li> <li>③こんな授業が面白い</li> </ol>			

.....  
**グループディスカッションの記録**  
.....

**ディスカッション I**

<教員グループ>

- ①授業方法の工夫
  - ・教員自身や学生の興味があることを話す(教科書通りではつまらないため)
  - ・考える時間と書く時間を設ける
  - ・考える時間が持てる質問をして、話し合い(2人組やグループで)の時間を設ける
  - ・学生が発信できる機会を設ける⇔発表させない
  - ・タイムリーな課題を見つける(新聞などから)
  - ・現場の事例を踏まえながら理論を説明する
  - ・授業の途中で感想を貰い、授業に反映させていく
  - ・授業内容がどんな場面で必要になるか説明する
  - ・視覚や聴覚に訴えるような教材・資料・スライドづくり
  - ・提出物で授業への参加を促す
  - ・学修ノートを活用し学びの記録の収集・保存
- ②評価方法の工夫
  - ・段階的評価にしている
  - ・評価基準をできるだけ明確にしている
  - ・公平にし、私情を挟まないように点数化している
- ③授業に関する悩み
  - ・本当に本を読んできているのか?
  - ・課題の達成率が低い
  - ・ボーダーラインの学生の評価が苦しい
  - ・例え話のネタが少ない
  - ・学生の興味関心をどうやって引き出すのか(寝てしまうので)
  - ・寝ている学生の取り扱いについて(起こす?寝かせたまま?)
  - ・学生との距離感

<学生グループ>

- ①授業方法への要望
  - ・パワーポイントを進めるスピードをゆっくりにして欲しい(ついていけない)
  - ・大きな字や濃い字で板書して欲しい
  - ・教科書の以外の内容も説明して欲しい
  - ・ディスカッションの授業は楽しく集中できるため沢山取り入れて欲しい
  - ・指定席にして、意欲のある人を前にして欲しい
  - ・スポーツや部活動、免許資格など身近に思える授業をして欲しい
  - ・聞くだけや書くだけの授業はやめて欲しい
  - ・質問をしやすくして欲しい
- ②評価方法への要望
  - ・レポートや学習意欲(発言など)も含めて総合的に評価して欲しい
  - ・レポートやテストを返却してフィードバックして欲しい(何が良くて何が悪かったのかを知りたい)
  - ・評価の観点を知りたい
  - ・部活動による欠席者への対応を改善して欲しい(考慮して欲しい)
- ③こんな授業が面白い
  - ・実習や実践に向けた授業
  - ・事例としてのビデオ
  - ・体験型の授業
  - ・「へえ～」と思える授業
  - ・授業内容を誰かに話したくなる授業

**ディスカッション II**

- Q. 大学における理想の講義とは
- ・学生との距離が近い授業
  - ・実践的授業
  - ・名物先生の授業
  - ・知識が身につく講義
  - ・先生ごとの評価方法が統一されている



# 報 告 REPORT

## FD 研修会

### 「シラバスおよびルーブリック作成」 I. シラバスの作成方法などについて II. ルーブリックの作成方法などについて

日 時：平成 31 年 1 月 8 日（火）17 時 30 分～18 時 00 分

会 場：第 5 体育館 2 階大教室

講 師：教育改善企画運営委員会 高橋委員長

参加者：全教員



本学では学生にとってよりわかりやすいシラバスとするために、教員に配布している作成要領を、毎年加筆修正している。本年度はそのシラバス書式の変更点や作成時の留意点、および来年度から導入するルーブリックの作成要領についての研修会を実施した。来年度から、新たに設定された記載欄や記載方法の変更について説明した。わかりやすいシラバスになるように、それぞれの変更箇所とともに、それぞれの記載の方法についても説明をした。また、次年度から導入するルーブリックについては、ルーブリックとは「何か」についてを説明し理解してもらったうえで、どのように作成すればよいかを記載例を交えながら説明をした。



---

## SUFD Report2018 平成 30 年度仙台大学 FD 年次活動報告

編 集：仙台大学 教育企画部 教育改善企画運営委員会

委員長：高橋徹

委 員：郡山孝幸 針生弘 日下三男 藪耕太郎 林直樹 福田伸雄 平良拓也

発 行：仙台大学

〒989-1693 宮城県柴田郡柴田町船岡南 2 丁目 2 番 1 8 号 電話：0224-55-1121（代表）

制作・DTP：株式会社仙台紙工印刷

発行年月日：2019 年 3 月 8 日